

1 くがにくとぅば[黄金言葉] vol.190

人と街を結び、人と人を結ぶ

沖縄都市モノレール株式会社 代表取締役社長 美里 義雅

5 地域リレーションシップ情報 184

沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について

【その1】ITC沖縄と金融機関が連携協定を締結

【その2】「知財のミカタ～巡回特許庁 in OKINAWA～
(八重山会場、うるま会場)」の開催について

【その3】ものづくり事業・物流事業を支援します！

10 おきぎんマーケティングレポート

第78回おきぎん企業動向調査

(2019年10～12月期) 調査結果

～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感～

18 けいざい風水

22 おきぎんカトレアクラブ通信

24 県内景況・確報

2019年10月の県内景況

32 国内景気動向

34 沖縄マーケティング情報

①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数

②世界の中の沖縄(年次)

③グラフでみる沖縄経済

④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)

54 経済社会のできごと (沖縄、国内・海外)

2019年11月



表紙写真/おせち料理

人と街を結び、人と人を結ぶ



沖縄都市モノレール株式会社

代表取締役社長 美里 義雅



今回は、愛称・ゆいレールで今や、県民や観光客の交通手段として定着し、2019年10月1日に延長区間（首里ーてだこ浦西間）が開業した沖縄都市モノレール株式会社の仲村 守 常務取締役にこれまでの取り組みや、地域公共交通機関としての役割、今後のビジョンなどについてお話を伺って参りました。

今や、県民や観光客の交通手段として定着

ゆいレールは、県都那覇の渋滞解消に向けた戦後県内初の軌道系交通機関として、那覇ー首里駅間の15駅、延長12.9kmの区間で2003年8月10日に開業しました。

開業以来、輸送力の強化と利便性の向上などに努めて参り、開通14年目の2017年10月に2億人を達成し、2019年8月末までに2億3千万人を越えるお客様が利用されています。

★これまでの主な取り組み

《輸送力の強化》

- ①車両内のスペースを広くした新型車両の導入



▲混雑時でもスムーズな乗降ができるよう、ロングシート座席10名掛けに変更（従来車12名掛け）し、ドア横にスペースを設けました。

- ②産業まつりなどのイベント時にあわせた臨時便の運行
③効率的なダイヤ改正
- ・金曜日ダイヤ、土曜日ダイヤ新設
（平日257本、金曜日273本、土曜日237本、休日217本）
 - ・平日・土日ともに日中は8分間隔で運行。朝のラッシュ時は4分間隔で運行

《利便性の向上》

- ①車両 Wi-Fi の設置
②ICカード「OKICA」の導入
③隣の駅まで150円で乗車出来る「おとなり割引」の販売（OKICA 利用時）



《他》

- ①那覇市とタイアップした高齢者割引制度「がんじゅう1日乗車券」の運賃支援
②子供の貧困解消に向けた割引制度「こども未来カード」の実施
③ラッピング車両の運行（初めてのラッピング車両は2011年1月の地デジカGo）



- ④ワイン列車、ウェディング列車、忘年会列車などのイベント列車の運行
⑤ゆいレールグッズの販売や、ゆいレール展示館の開館

2018年度は、ダイヤ改正や観光客の利用増などに伴い、年間の乗客数が1,905万7,176人と過去最高を記録し、一日平均52,355人が利用されました。

通勤・通学・帰宅といった日常的に利用されるお客が増えたことや、沖縄を訪れる観光客が増加する中、特に外国人観光客の利用が増えたことも好調の要因でした。

今や、ゆいレールは県民や観光客の交通手段として定着していると言えるでしょう。

2019年10月1日 延長区間（首里ーてだこ浦西間）が開業

沖縄における都市モノレール構想は1977年に遡り、当時「那覇空港から西原入口まで」とされていたモノレールのルート案は42年を経て具体化されました。

2013年11月に首里駅から浦添市向けに4駅、4.1kmを延長する総区間の整備が始まり、2019年10月1日、起工式から約6年で営業開始の日を迎えることが出来ました。

那覇空港駅からてだこ浦西駅までの19駅、約17kmを37分で走ります。

浦添延長後の2019年度は一日平均55,000人の利用が見込まれ、2020年3月の那覇空港第2滑走路の供用開始後は、年間乗客数約2,300万人を想定しており、更なる輸送力の強化と乗客の快適性の確保に努めてまいります。



▲延長ルート（出所：沖縄県）



▲石嶺駅

周辺には沖縄県総合福祉センターを中心に集積する福祉施設があります。



▲経塚駅

経塚公園や墓地公園、前田トンネル等の緑に囲まれた駅。近くには、JICA(国際センター)や大型商業施設があり、国際性豊かで買い物なども便利な駅です。



▲浦添前田駅

浦添市の玄関口となる駅。周辺には、市のシンボル「浦添城跡」ほか、浦添市役所、てだこホール、浦添市美術館などがあり、行政施設や歴史・文化施設へのアクセスが便利です。



▲てだこ浦西駅

中北部から沖縄自動車道を経由するバスや自家用車から、ゆいレールへの乗り継ぎがしやすいよう、駅周辺には交通広場やパーク＆ライド駐車場(約1,000台)が整備され、地域の住民や那覇市中心地域に向かう人たちの利用に便利な駅です。

★延長開業後の主な取組予定

- ①2020年春を目処に Suica やPASMO などの10種類の全国共通ICカードに対応
- ②2両編成車両を2両追加し、2019年10月から運行開始
- ③2023年度には3両編成の車両運行を目指す

人と街を結び、人と人を結び

当社は「人と街を結び、人と人を結び、人に優しい県内唯一の軌道系公共交通としての使命を果たす」を経営理念に掲げています。

ゆいレールの運行区間が那覇空港駅からてだこ浦西駅までの約17kmとなることで、浦添延長部分の沿線開発も進み、特に新しい駅周辺は街並みの整備による需要創出効果で、新たな地域活性化も生み出されつつあります。

また、何より、てだこ浦西駅については、沖縄自動車道との結節及びP&R（パーク・アンド・ライド）機能としての1,000台規模の駐車場が併設されたことで、本島中北部地域を含めた交通ネットワークが形成され、県民及び観光客の足として那覇都市圏の交通渋滞緩和に寄与します。



▲てだこ浦西駅周辺 完成イメージ（出所：沖縄県）



▲モノレールと沖縄自動車道が接続し「パーク&モノライド」が実現（出所：沖縄県）

更なる延伸構想

今後のモノレールの延伸計画については、県がイニシアティブを取って延伸導入による影響や課題などを検討しています。

そうした延伸案の一つに、特定非営利活動法人沖縄県都市モノレール延伸・利用促進協議会と沖縄都市モノレール将来構想研究会とが考案した「沖縄都市モノレール・延伸構想ルート」があります。

協議会は県やルート上の自治体などへ、早期実現を要請しています。

定時運行が確保できる都市モノレールの更なる延伸は多くの県民に期待されています。



▲沖縄都市モノレール・延伸構想ルート（図提供：沖縄タイムス社）

これからもゆいレールは、公共交通機関としての使命と役割を担い、安全で快適な運行を第一に、県民に愛され親しまれるようサービスの向上に努め、社会と共生していくことを目指し、役職員一同精励努力していく所存でございます。



ゆいレールグッズ好評発売中！

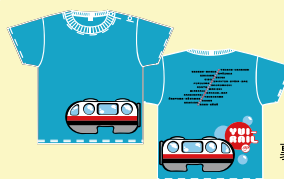


こども用Tシャツ
(制服)

2,178 円 (税込)

冬の制服をモチーフにした
Tシャツ。駅長・運転士気分が
味わえるかも！

サイズ：100・120



こども用Tシャツ
(ブルー)

2,178 円 (税込)

裏と表に一両ずつゆいレールが
プリント。背中には 19 駅の駅名
が書かれています。

サイズ：100・120



クリアファイル
(延長柄)

220 円 (税込)

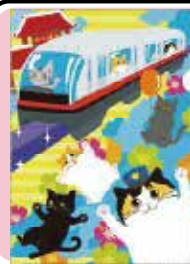
様々なシーンを走るゆいレール。
沿線の色々な景色が楽しめます。
好きな駅で下車散策をどうぞ。



クリアファイル
(エイサー柄)

220 円 (税込)

首里城をバックに走るゆいレール
と、かわいいイラストたち。
お土産に喜ばれること間違いナシ！



クリアファイル
(猫 Cafe"にゃんそーれ"コラボ)

220 円 (税込)

猫 Cafe"にゃんそーれ"とゆいレールの
コラボグッズ！可愛いネコのイラスト
が癒し効果バツグン。



ゆっぴーマスキングテープ

440 円 (税込)

ゆいレールのアイドル・ゆっぴー
のマスキングテープ。

貼って剥がせるテープで、様々な
使い方でお楽しみいただけます♪



ゆいレールくつした

550 円 (税込)

男の子でも女の子でも履いて
可愛いモノレールの靴下です！

サイズ：16～20cm



ゆいレールトートバッグ

1,100 円 (税込)

A 4サイズが楽々入る大きさです。
ゆいレールのオリジナルカラーを基調と
した、沖縄らしいにぎやかなデザイン。



ゆいレールちんすこう
(7袋 14個入り)

540 円 (税込)

※販売は下記店舗でのみ。

- ◆「新垣カミ菓子店」
- ◆「沖縄・美々(ちゅらじゅら)」
- ◆「ショップなほ」ほか

☆販売箇所☆

- ゆいレール展示館・県庁前駅・牧志駅(改札窓口)
- 35コーヒー売店
(那覇空港駅・旭橋駅・おもろまち駅・首里駅)

沖縄都市モノレール株式会社

けいざい風水

魅力にあふれる泡瀬地域

クルーズ船増、海浜開発も

沖縄市の東部地域として海沿いに広がる泡瀬は、かつては製塩業で栄え、戦前は中頭随一の商工業の街として繁栄を誇りました。大戦で全てが灰塵（かいじん）に帰しましたが、泡瀬人の気骨と負けじ魂で困難を克服し、沖縄市東部地域の中心地として戦前にもましますの発展を見せており、近年の沖縄市および東部11自治会の人口や世帯数も増加傾向にあります。

戦後、郷里泡瀬の復興を願う有志が立ち上がり「泡瀬復興期成会」を創立し、移住計画・内海埋め立て・区画整理・人材育成・伝統文化芸能の継承発展等々に尽力されてこられました。

昨年は「泡瀬村創設115年・泡瀬復興期成会創立70周年」の記念式典が10月に行われました。同11月には記念事業の一環として、5年に一度の泡瀬大綱引きが東部11自治会との連携等により泡瀬ベイストリート（県道85号線）で催され、5万人もの来場で大盛況のうちに終えました。

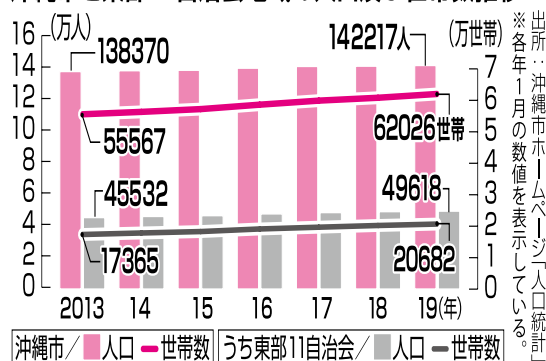
また、行政においても沖縄市の国際文化観光都市の実現を目指し、泡瀬地区の新たな拠点開発を重要な地域・事業と位置付けています。スポーツコンベンション拠点の形成を柱に、東部海浜開発計画が着々と進んでおり、県内最大級の人工ビーチ（900メートル）の整備も予定されています。

さらに、中城湾港ではクルーズ船の寄港も増加傾向にあり、2016年度は9回でしたが、19年度の予定は49回と3年で5倍以上に増加しています。

経済・観光・文化など、今後もさまざまな分野で「あわせ」地域がさらに「しあわせ」地域になることが期待されます。

（沖縄銀行 泡瀬支店長 渡久地 克也）

沖縄市と東部11自治会地域の人口及び世帯数推移



（2019年6月16日掲載）

一番多い台湾からの観光客

今後も増 滞在日数課題

2018年度の県内入域観光客は、999万人（前年比4.4%増）と6年連続で過去最高を更新しました。このうち、国内客は約699万人（同1.6%増）、外国客は約300万人（同11.5%増）でした。国別で見ると、台湾が1位で91万人（2位は中国で69万人）となり、外国客の約30%が台湾からの観光客です。

増加要因としては、LCCによる高雄―那覇路線などの航空路線拡充などが挙げられます。

沖縄県が作成した「ビジットおきなわ計画」では、19年度の入域観光客目標を1,030万人（前年比3.0%増）、うち外国客324万人（同約8.0%増）としており、県、OCVB、観光協会、観光事業者で観光施策を打ち出しています。

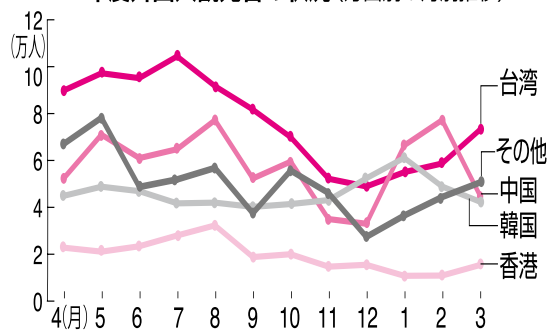
民間レベルでも活動団体は多く、沖縄から最も近く、多くの共通点を有する台湾とは「沖縄・台湾交流振興会」などがスポーツ・経済・文化交流を目的に盛んに活動を行っています。

同振興会は毎年5月に那覇市と共に「NAHAマラソン」への参加誘致キャラバンを台湾主要都市で行っており、台湾からのマラソン参加者増加に一役買っています。

沖縄県と地理的に近い台湾からの観光客は、今後も増加するものと思われますが、クルーズ船による日帰り観光の方も多く、滞在日数増に向け官民一体となった多彩なイベントの開催や観光・宿泊施設整備等が期待されます。

（沖縄銀行 曙町支店長 中村 一郎）

2018年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



（2019年6月23日掲載）

食の観光資源 沖縄ステーキ 戦後定着、特有の食文化

観光客の皆さんは沖縄に何を求めているのでしょうか？エメラルドグリーンに輝く海、グスクなど歴史的建造物や琉球文化、音楽と離島のゆったりと流れる時間。そして、やはり「食」に関する期待も大きいのではないのでしょうか。

那覇市の観光統計によると、那覇市内で1泊以上宿泊した旅行者（航空乗客アンケート調査）で、那覇市内で飲食した商品のうち一番満足した飲食商品は「ステーキ（13.4%）」が最も多く、次いで「沖縄そば（10.1%）」「ソーキそば（5.8%）」などが続いています。

今でこそ老若男女を問わず県民に愛される「ステーキ」ですが、そもそも、なぜ沖縄の料理として確固たる地位を築いたのでしょうか。

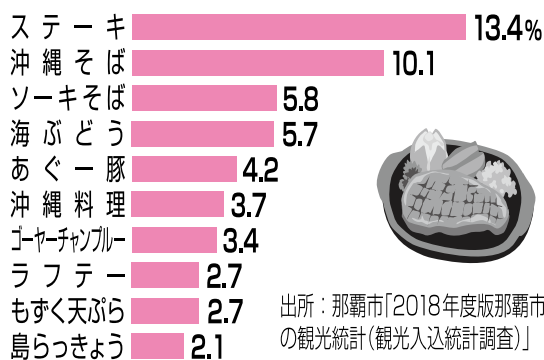
沖縄は戦後アメリカ統治下にあったことから、数多くのアメリカ文化を取り入れてきました。コンクリート住宅もそうですが、基地内の生活様式を取り入れたいわゆる「チャンプルー文化」です。ステーキも当初はアメリカ軍人およびその家族向けのレストラン、いわゆるAサインバー（米軍公認の飲食店）からスタートし、その後に地元住民の食文化として慣れ親しまれ、根付きました。

今では那覇の国際通りをはじめ、繁華街でもステーキの看板をよく目にします。一部メディアでは沖縄独特の「飲み会の締め」として紹介されているようです。

週末、職場の同僚、家族団らん、カップル、おひとりさま利用と形を問わず、戦後沖縄特有の食文化伝承のためにも、ステーキハウスに足を運んでみませんか。

（沖縄銀行 高橋支店長 本多 浩太郎）

飲食店で一番満足した商品（那覇市内、上位10商品）



名護市の観光客入込数の推移 道路・球場完成に期待

沖縄県全体の入域観光客数が順調に推移する中、名護市の観光客入込数も増加傾向で推移しています。2017年は観光施設入込客数499万6千人（前年比14.5%増）、宿泊施設入込客数131万6千人（前年比3.6%増）と、ともに過去10年の中で最高を記録しており、特に観光施設部門の伸び率は好調となっています。

イベント集客数は10年の37万2千人が過去10年の最高値で、その後、増減を繰り返し、17年は24万1千人（前年比26.1%減）となっています。市営球場の建て替えによるプロ野球キャンプの一時中止や、台風等によるイベント中止の影響が要因となっています。

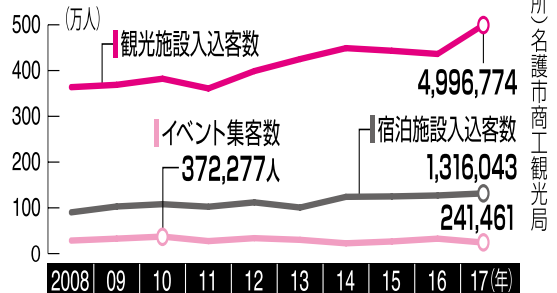
月別推移では観光施設、宿泊施設とも夏場のトップシーズンが入込客数のピークとなっている一方、イベント集客数では冬場の1月が最も多く、その要因として名護市の中核的なイベントである名護さくら祭りが牽引（けんいん）していることが挙げられます。

今年12月には名護市営球場の完成が予定されており、来年2月からはプロ野球チーム北海道日本ハムファイターズの春季キャンプが決定しています。道路整備事業では数久田から世富慶間を結ぶトンネル工事が2021年夏の開通に向けて着々と進んでおり、幹線道路の交通渋滞の緩和が見込まれます。

北部地域の玄関口にあたる名護市の観光関連事業の発展は、北部地域6市町村の発展に欠かせず、今後も多くの可能性があるものと考えます。さまざまな魅力を目的に多くの観光客が訪れ、楽しみ癒やされる地域として発展することを期待します。

（沖縄銀行 大宮支店長 嘉数 正健）

名護市の年間観光客入込数の推移



増加する世帯数と住宅供給 高水準維持、空き家増も

沖縄県の推計世帯数は2018年10月1日時点で59万2,931世帯と前年同月比1万945世帯増加しています。一方、同年度における県内の新設住宅着工戸数は1万6,197件と前年比で4.6%と減少しましたが、依然として高い水準で推移しています。分譲住宅（マンション含む）は、地価および建築資材価格が高まる中、前年比で11.9%増加しています。

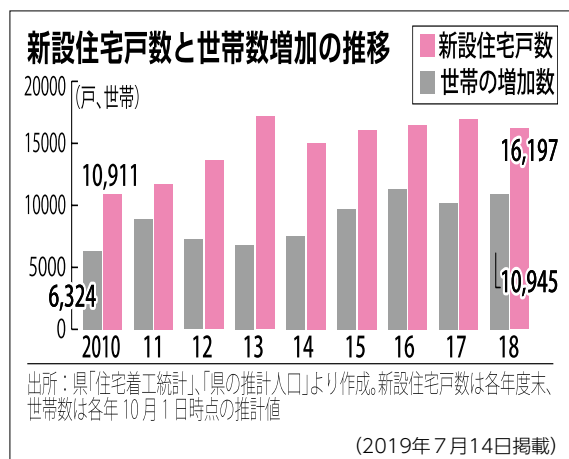
一方、貸家は前年度比で6.1%減少しましたが、新設着工戸数に占める割合は65.8%と、全国平均の40.9%に比べ高くなっています。「おきぎん賃料動向ネットワーク調査2018」における賃貸管理会社へのヒアリング結果では、賃貸物件の平均稼働率は全般的に高い水準を維持しています。

特に先島地方は公共・民間工事等による借上げ需要増加から100%に近い水準で推移しており、本島内でも那覇新都心は生活環境や交通利便性の良さから、単身から家族世帯まで幅広く人気があり高い稼働率を維持しています。

このように県内新設住宅では貸家の割合が高く、稼働率も高めに推移しています。一方、老朽化による取り壊し等も一定数あるとはいえ、世帯数の増加以上に新設住宅戸数が伸びています。近年空き家が増加しているとの調査もあるようですので、住宅購入またはアパート建築を検討されている方は、今後の空き家動向にも注目していく必要がありそうです。

(沖縄銀行

ローンFPステーション那覇店店長 多和田 学)



沖縄県産ヨウ素の発掘・製造 産学官連携で産業化期待

沖縄県の面積は約2,281平方キロメートルと日本で4番目に小さい県ですが、東西約千キロ、南北約400キロにもなる広大な海域があり、その豊富な海洋資源の利用に向けた調査・研究が進められています。一方、そこに浮かぶ島々にも希少な資源が眠っており、その有効活用が期待されています。

近年、西原町内で行われた水溶性天然ガスの試掘調査において、県内で初めて99.9%の高純度ヨウ素（一般的には99.8%）の製造が行われました。

ヨウ素は、地下から水溶性天然ガスを採取する際に付随する地下水「かん水」に含まれており、そこから抽出・精製することで製品化されます。現在、レントゲン造影剤、殺菌防カビ剤、甲状腺ホルモン剤などの医薬品、液晶ディスプレイのフィルム、工業用触媒、飼料添加物ほか、事業用から日常生活までさまざまな場面で活用されています。

また、水溶性天然ガスを用いた発電事業や、かん水（地下水）の温泉施設への活用やスパ・タラソテラピー、農業用水としての利用なども検討されています。

世界的なヨウ素の生産は南米のチリが約6割、日本が約3割と、両国で9割近くを占めています。日本国内での生産は千葉県が82%、新潟県10%、宮城県8%となっています。

今回の調査で、西原町周辺で水溶性天然ガスが27億立方メートル、それに含まれるヨウ素が12万4千トン埋蔵されていると確認されています。今後、産学官が連携し、沖縄県の地域資源としての事業化、産業化につながれば、地域の活性化も期待されます。

(沖縄銀行 西原支店長 前田 晋)

